罐詰鯨肉内に於けるF抗原の有無に就いて

岡屋忠治岩本喜伴宮田晶子

On Content of Forssman's Antigen in the Canned whale Meat.

Chuji Okaya, Yoshitomo Iwamoto and Akiko Miyata.

We ① reported in the previous report that horse meat admixed with beef could be distinctly detected by proving the presence of Forssman's antigen.

It is said that whale meat may be canned for beef, because whale meat is scarcely told from beef organoleptically after they are cooked and seasoned with soy and sugar together.

In this case, we observed that whether whale meat could be detected in canned beef when admixed in it, as in the case of horse meat.

We prepared canned whale meat seasoned with soy and sugar from marketed raw whale meat, and tested out whether it contains Forssman's or lipoidphile heterophile antgien in the canned good by means of Morita's method, proving the canned whale meat contained above mentioned antigen. So we were convinced that whale is one of the gunia-pig type animals in the distribution of Forssman's antigen, as horse is.

Accordingly, being admixed with beef at canning imitationally, whale meat is distinguished from beef serologically by the method that we tested.

1. 序 言

著者等①は先に罐詰牛馬肉鑑別試験に於いて、罐詰牛肉中に往々混合せられる馬肉を検出する為に、其罐詰肉内の下抗原(Forssman's or lipoidphile heterophile antigen)の存否を血清学的に判定して、下抗原の確認されたものは馬肉の混合されたものであり、これの存在を確認されなかった罐詰内には馬肉が混合されなかったものであることを確めた。

然し最近南氷洋及北太平洋に於ける捕鯨事業の隆昌と共に内地に搬入せられる量も著増し、鯨肉罐詰も盛に製造せられる様になった。而してこの鯨肉罐詰は、冷蔵、冷凍事業の普及発達に従い、原料肉の鮮度が非常に高度に維持されるようになって、其外観、食味(其脱臭操作が極めて巧妙に行はれるようになった為に)共に勝れ、罐詰に製造された鯨肉は牛肉と素人目には殆ど判別つかない様になった。従って馬肉と同様に牛肉罐詰内に混合される危険性が強くなったので罐詰鯨肉中に下抗原の有無を検し、鯨がモルモット型(下抗原を有する動物)の動物があるか、又は家兎型(下抗原を有せざる動物)であるかを、血清学的に判定して、罐詰牛肉内に混合せられた鯨肉検出の可

能性があるかないかを試験した。

試料は市販の鯨肉を購入し、大和煮罐詰に製造したものである。

2. 方法及結果

其方法は①に詳細に記録する所があるから此処には省略する。其の結果は次表の通りである。

試 験	管 番	号	1	2	3	4	5	6	
М	Н	D	8	4	2	1	0.50	0.25	血清:肉沈
鯨	肉	(1)	_	_	-		_	_	4:1
鯨	肉	(2)	_	-	-	_	-	_	4:1
対照	(吸収せ	ず)	#	#	#	#	+	_	
対!	照 牛	肉	#	#	#	++	±	_	4:1
対	照馬	肉	_	_	_	_	_	_	4:1

3. 要約

上表に示す如く鯨肉は馬肉と同様にF抗原を有するモルモット型の動物の肉に属することが明かになった。従って鯨肉を罐詰牛肉中に混合するときは馬肉と同様に血清学的に判別し得る事が確実になった。

本試験実施に当り大阪府衞生研究所猷医部長青木龍身氏は、使用したモルモット血清、緬羊血球の全部を供与せられ御援助下された。又免疫家兎の採血は大阪純系試験動物研究所の手を煩した。 以上を列記して深甚なる感謝の意を表する次第である。

4. 文 献

① 志賀・岡屋・岩本・宮田: - [[年] | 一年 | 東洋罐詰専修学校 研究報告第三号 P.44, 1954.